



## ◆プロフィール◆

昭和34年生まれ(52歳)  
大阪学院大学卒

参加団体

京都府建設業協会 常任理事、京都管更生工法協会  
会長、3SICP 技術協会 理事、NPO 京都建設技術  
支援機構 理事

座右の銘は「人の一生は重き荷を負ひて、  
遠き道を行くがごとく急ぐべからず」

株式会社 古瀬組

代表取締役 古瀬雅章

## ——発注者としての行政に求めること

基本的な問題は建設投資額が平成4年をピークに下がり続け、今や半分以下になっている状況下でありながら、建設業者の減少数が伴わず需給バランスが悪く、過剰供給構造になっていることだと思う。

国をはじめ建設業の発展のために努力をして頂いているのは十分理解できるが、その方向性が見えてこない。よく優良適格業者を残し不良不適格業者の排除といわれるが、その定義もない状態であり、自然淘汰を待っている様には見えない。

京都府建設業協会の土木委員会でもよく話題になるが色んな意味で基準(ハードル)を設けそれを超えた業者が入札参加出来るなど、目標設定をもう少し明確にして頂ければと思う。大げさに言えば、現在の建設業界は行くあての無い航海に出ている状況ではないか。

## ——協会運営についてはどのような方針をもって取り組むか

土木委員会の中で昨年・一昨年と経審制度について他府県(千葉・富山・福岡)の建設業協会の方たちと意見交換並びに勉強会を行った。特に供給過剰となっている一つの要因でもある有資格者のわたり(多重登録)について陳情活動を行い、現経審制度である「6か月を超える恒常的雇用契約」がなければ経審には反映しない事として頂いている。

その様な事も踏まえ、今後も正直者が馬鹿を見ない健全な建設業界になるように努力して行きたいと思っている。

## ——今後の協会の役割について

建設業界を根本から見直し、全国建設業協会とも連携を取りながら健全な建設業者像を描きながら国を中心に各行政区との意見交換を活発に行っていければと思う。

現在各都道府県で有識者による入札制度審査会等が開催されているが、そこにはほとんど建設業界の人達の参加がなされていないと聞いている。

やはりこれだけ建設投資額が減少していく中で需給バランスが悪く、健全な建設業の発展が見込めない状況下、内情を理解されていない所で論議されるのではなく建設業界の人達が参加し、論議しながら方向性を示していくのが良く、その役割として建設業協会が中心になるべきと考える。

## ——経営者として今年の抱負

私が社長になって7年目を迎えるが、建設業界が「脱談合宣言」を表明し、ある意味建設業界自体が大きく変わった時だったと思う。脱談合宣言から私どもは「脱土建屋」を目指している。

「脱土建屋」という言葉については誤解のない様にとと思うが、公共事業が減少する中で待つだけでは仕事は回ってこない、自らが顧客・世の中が要望するものは何かを感じ取って、その実現のために提案・提供する事と考えている。

また年々建設投資額が減少していく中で、同じ様な事をしているだけでは会社の成長は見込めないと東京に支社を設けた。これは東京都も含め公共事業の受注拡大はもちろんだが、第一の理由は首都で経済規模も大きな場所での人脈(ネットワーク)づくりでした。現在ではお陰様で多少なりとも受注が出来るようになってきましたが・・・

東京支社を設けると同時に(株)フルセコーポレーション(旧(株)ふるせ)を立ち上げ、京都地域産材でもある北山杉を使ったリノベーション事業を手がけています。

昨年は、北山杉ブランディングプロジェクトにも参画をさせて戴き地域活性の一助にもなればと思っています。

私どもが目指す道は公共事業中心の「請け」「負け」業からの脱却をテーマに推し進めており、今年も継続して提案型の企業づくり、簡単に言えば「お客様にこれを売っています」と具体的にセールストーク出来るような体質に持っていきたいと思っている。